

# 木造建築物の応急危険度判定調査表

集計欄は数字で記入

木

整理番号 \_\_\_\_\_ 調査日時 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 午前・午後 \_\_\_\_\_ 時 調査回数 \_\_\_\_\_ 回目

整理番号

調査者氏名(都道府県/No) \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ / \_\_\_\_\_ )

\_\_\_\_\_

## 建築物概要

建築物番号

1 建築物名称 \_\_\_\_\_ 1.1 建築物番号 \_\_\_\_\_

住宅地図整理番号

2 建築物所在地 \_\_\_\_\_ 2.1 住宅地図整理番号 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

3 建築物用途 1.戸建て専用住宅 2.長屋住宅 3.共同住宅 4.併用住宅 5.店舗 6.事務所  
7.旅館・ホテル 8.庁舎等公共施設 9.病院・診療所 10.保育所 11.工場  
12.倉庫 13.学校 14.体育館 15.劇場、遊戯場等 16.その他( )

3

4 構造形式 1.在来軸組構法 2.枠組(壁)工法(ツバイフォー) 3.プレファブ 4.その他( )

4

5 階数 1.平屋 2.2階建て 3.その他( )

5 階

6 建築物規模 1階寸法 約 ア \_\_\_\_\_ m × イ \_\_\_\_\_ m

ア m

イ m

調査 調査方法:(1.外観調査のみ実施 2.内観調査も併せて実施)

調査方法

1 一見して危険と判断される。(該当する場合は を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

1.建築物全体又は一部の崩壊・落階	2.基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3.建築物全体又は一部の著しい傾斜	4.その他( )

1

## 2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1.危険無し	2.不明確	3.危険あり
構造躯体の不同沈下	1.無し又は軽微	2.著しい床、屋根の落ち込み、浮き上がり	3.小屋組の破壊、床全体の沈下
基礎の被害	1.無被害	2.部分的	3.著しい(被害あり)
建築物の1階の傾斜	1.1/60以下	2.1/60~1/20	3.1/20超
壁の被害	1.軽微なひび割れ	2.大きな亀裂、剥離	3.落下の危険有り
腐食・蟻害の有無	1.ほとんど無し	2.一部の断面欠損	3.著しい断面欠損
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合 (要 内観調査)	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	3.危険 Cランクが1以上ある場合

判定

\_\_\_\_\_

## 3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
瓦	1.ほとんど無被害	2.著しいずれ	3.全面的にずれ、破損
窓枠・窓ガラス	1.ほとんど無被害	2.歪み、ひび割れ	3.落下の危険有り
外装材 湿式の場合	1.ほとんど無被害	2.部分的なひび割れ、隙間	3.顕著なひび割れ、剥離
外装材 乾式の場合	1.目地の亀裂程度	2.板に隙間が見られる	3.顕著な目地ずれ、板破損
看板・機器類	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.落下の危険有り
屋外階段	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.明瞭な傾斜
その他( )	1.安全	2.要注意	3.危険
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	3.危険 Cランクが1以上ある場合

判定

\_\_\_\_\_

総合判定(調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する。)

総合判定

1.調査済(緑) 2.要注意(黄) 3.危険(赤)

\_\_\_\_\_

コメント(構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)

\_\_\_\_\_

コメントは判定ステッカーの注記と同じとする。